

(3) 指導の実際

〔事例1〕 2年 かけ算

(教具使用のねらい)

覚えたばかりの乗法九九を定着させること。

5の段を学習した後で、5の段だけの9個のプレートははずし、積が見えるようにしておく。

枠の中に書かれた式を見て、当てはまる積を探して1枚ずつはめ込ませた。

また、学習の進度に応じて、5の段と2の段を同時にはずして、5の段の積と2の段の積を区別する見方を養うようにした。

さらに、1の段から3の段、1の段から4の段……のように複数の段のプレートを同時にはずして、どの段にどんな積があるのかを覚えさせるようにした。

覚えたばかりの乗法九九が遊びの中で使えるので、式の答えをもっとよく覚えようと自ら教科書を開いて、熱心に乗法九九の暗唱に取り組む姿が見られた。

〔事例2〕 3年 かけ算-1

(教具使用のねらい)

積と被乗数から乗数を見つけて、式を完成させること。

はじめに、4の段のプレートを9個はずして裏返しにしておく。次に、プレートを1つずつ手に取って、積を見ながら4の段の当てはまる式を探してはめ込ませた。

教科書の例題にある $4 \times \square = 12$ 、 $4 \times \square = 20$ などの未知数を見つけ、乗法九九を完成させる学習が楽しく進められた。

〔事例3〕 3年 わり算

(教具使用のねらい)

積から被乗数を自分で決め、その被乗数をもとにして乗数を見つけて、式を完成させること。



(「21」は3かけるいくつだった?)

はじめに、3の段と4の段のプレートを全部はずして裏返しにしておく。次に、プレートを1つずつ手に取って、積を見ながら何の段の積かを考え、被乗数を自分で決める。自分で決めた被乗数と積をもう一度見比べて乗数を見つけさせた。

学習が進むにつれて、プレートははずす段の数を増やし、最終的には、81個のプレート全部を一度にはずしてから、全プレートをもどす遊びに発展させた。

4~6人のグループ対抗で、全プレートをはめ込むまでの時間を競争させた。6人では、2分21秒が最高タイムであった。

また、「12」を「 3×4 」の枠へ入れようとすると、既に「12」がはめ込まれていて、自分で決めた被乗数の変更を余儀なくされる場合も生じ、「12」の被乗数を拡張していく姿が見られた。

さらに、「63」や「72」……などの大きな積の被乗数を見つけられない人がグループにいと、「 7×9 じゃないの」「 8×9 だよ」と積極的に教え合う姿も見られた。